

今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 南砺平高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題	主体的に学習に取り組む態度の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や寮での学習量や内容が不十分で、十分な態勢で授業や考査に臨めていない生徒がいる。 ・基礎学力が不足しているため、教科内容の習得に時間がかかる生徒がいる。 ・進路に対する目標が明確でなく、課題への取り組みが不十分な生徒がいる。 ・自分の学習状況を自己診断できず、自らの学習を調整できていない生徒がいる。 	
達成目標	①学習時間の確保 ・生徒の1週間あたり、授業以外の学習時間 ・各学年平均600分以上	②自ら学習改善するための工夫をする態度の育成 ・自分の学習状況を自己判断し、学習改善に取り組んだかを4点満点で評価 (各学期末に取り組み状況で調査) ・各学年3点以上(4点満点)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が取り組みやすい課題内容や生徒個々に合わせた課題レベルを検討し、朝学習をはじめ授業以外の時間にも学習する習慣を身につけさせる。 ・詳細な学習・生活実態調査を実施し、生活指導を合わせたきめ細やかな面接指導、助言を行う。 ・進路調査、成績結果と実態調査結果を分析し、進路意識を高める面接により、意識付けを図る。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学び方や学習計画の立て方等についてのモデルや事例を示すなど、対話の中から自らに適した学び方について考えられる機会を持つ。 ・個々の「自ら学習を調整しようとする側面」を大切にし、振り返りから自身の学習状況を自覚できるようにする。 ・評価の結果をフィードバックし、適宜アドバイスや支援を行う。 	

令和7年度 南砺平高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活	
重点課題	安全な学校生活と心身の健康について	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時に、交通ルールに対する安易な行動(歩きスマホ等)が時々見られる。 ・スマホを長時間、夜遅くまで使用するため、授業中眠そうにしている生徒も見受けられる。 ・生徒数が少ないことにより、人間関係が濃密になりやすく、ささいなことから人間関係のトラブルやいじめにつながりやすい。 ・不安や緊張に弱い生徒、悩みを抱える生徒が増加傾向にある。 ・自主的な健康管理ができず、体調不良を訴える生徒が増えている。また、食に対する正しい知識が乏しく、偏食の傾向がある。 	
達成目標	①スマホを正しく使える生徒 ・生徒会のスマホルールを守れる生徒80%以上 ・自分で作るスマホルールを守れる生徒50%以上	②質の良い睡眠をとる意識の向上 ・睡眠の質についてチェックシートで調査し、「睡眠の質が良い」と回答する生徒の割合 ・2回目の調査で「良い」の回答が10%以上増加
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会のスマホルールを周知し、毎学期末に守れたかどうか、5段階評価する。 ・ゲームや動画視聴等のルールを自分で作り、毎学期末に守れたかどうか、5段階評価する。 ・正しい使い方について考える機会を設ける。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・HR等を利用して、質の良い睡眠とはどのようなものか理解させ、それを踏まえて自分はどうすべきか考えさせる。 ・保健だより、給食だより、生徒厚生委員会の活動を通して、情報提供をする。 ・保健室での保健指導や、生徒寮での舎監による指導を行う。 	

重点項目	進路支援	
重点課題	主体的に進路を選択する力と進路実現に必要な能力の育成	
現 状	<p>・進路希望先は、大学・短期大学・専門学校への進学、就職と多様である。また、生徒間の学力差が大きく、進路実現のために必要な学力と実際との乖離が大きい生徒も少なくない。</p> <p>・進路実現のためには、早期に進路目標を設定し、その実現に必要な能力の育成に十分な時間をかけることが重要であるが、明確な目標が定まらないままに最終学年を迎える生徒が少なくない。</p> <p>・主体的に進路を選択する力を育成するために、学校においては、適性検査や進路ガイダンス、職業講話、進路見学会などの行事を系統的に実施し、自己理解や学問・職業、入試・就職制度への理解を促している。さらに、オープンキャンパスやインターンシップなどへの参加を利用して、進路希望先の具体化・明確化を促している。</p> <p>・令和元年度より外部模試を主に大学進学希望者を対象とする希望制とした。また、令和元年度から1・2年生に導入している「高校生のための学びの基礎診断」として、現在は1学期にスタディサポート(ベネッセ)、3学期に実力診断テスト(ベネッセ)を実施しており、生徒の基礎学力の判断指標とし、全体及び生徒個々の教科指導と進路指導に生かしている。</p>	
達成目標	①早期の進路希望の明確化 各段階に応じて、進路希望を明確にできる生徒の割合	②進路支援に対する満足度の向上 個々の進路希望に応じた進路支援に対する生徒の満足度
	<p>・1学年:進路希望調査 進学希望校種・学部や就職希望が定まっている割合 80%以上(2学期末、2月末時点)</p> <p>・2学年:進路希望調査 志望校名・学部・学科や希望業種が定まっている割合 80%以上(2学期末、2月末時点)</p> <p>・3学年:進路希望調査 出願希望校・就職希望企業業種が定まっている割合 90%以上(8月末時点)</p>	<p>・3学年: 進路支援に対する生徒の満足度 90%以上(1学期末、2学期末時点)</p>
方 策	<p>・適性検査や進路ガイダンス、職業講話、進路見学会などの行事を系統的に実施し、自己理解や学問・職業、入試・就職制度への理解を促す。</p> <p>・オープンキャンパスやインターンシップなどへの参加と、参加前後の面談を通して、進路希望先を具体化させる。</p> <p>・進路に関する個人面談を実施し、保護者会を通して、生徒と保護者が共に納得できる進路希望先を決定できるようにする。</p> <p>・生徒1人1人の特性・進路希望に合わせた進路関連情報を適時・適切に提供する。</p> <p>・基礎学力の状況を「学びの基礎診断」や外部模試、検定及び家庭学習時間調査の結果を通して把握し、個別の支援などを含めた学習指導を充実させ、進路希望先で必要とされる学力の定着を図る。</p> <p>・小論文、面接、実技の指導など選抜方法に応じた個別指導を早期から実施する。</p>	

重点項目	特別活動	
重点課題	特別活動の充実および読書習慣の定着	
現 状	<p>・生徒会中心に、生徒主体の学校づくりを目指している。生徒会行事ではそれが達成されているが、校則等の規律という面では教員に頼る部分もある。</p> <p>・放課後、部活動のない時間帯に学習せず、スマホをさわっている生徒が見受けられる。</p> <p>・小中高合同運動会、球技大会、文化発表会など、生徒が積極的に取り組んできた行事は多いが、コロナ禍で行事が中止もしくは縮小・制限され、モチベーションが低下気味である。</p> <p>・年間で一冊も本を読まない生徒が4割を超えており、生徒の読書離れが懸念されている。</p> <p>・図書館の蔵書冊数が他校に比べて少なく、十分とは言えない状況である。</p>	
達成目標	①学校行事や生徒会行事等での満足度 (5:満足、4:やや満足、3:どちらともいえない、2:あまり満足できなかった、1:満足できなかった)	②読書習慣の確立 ・生徒が良書に触れることを目的とする。年間読書の目標冊数を生徒各自が設定する。
	・すべての行事で、4以上の生徒が75%以上	・年間読書冊数の目標を達成した生徒が70%以上
方 策	<p>・生徒の自主性を大切にした運営、事前の準備を大切にす。</p> <p>・多くの生徒が準備に参加できるように計画を立てる。</p> <p>・リーダー研修会等を通して、リーダーとしての心構えや積極性を育てる。</p> <p>・アンケートでは、楽しかったかどうかだけでなく自分が成長できたかなどの観点も考慮させる。</p> <p>・各学年で毎週朝読書の日を設け、生徒全員が読書に取り組める機会を増やす。</p> <p>・「図書室だより」の発行や「購入図書調査」を通して委員会活動を活性化し、読書への関心を高める。</p> <p>・図書室と学級文庫に生徒が関心を高めるの蔵書を増やす。</p> <p>・生徒が興味を持ち、手に取りやすいように、図書室内外の図書の配置を工夫する。</p> <p>・読書調査記録表に読んだ本の冊数を記入し、読書量を意識させる。</p>	

重点項目	その他(地域・家庭との連携、生徒寮生活)	
重点課題	教育活動への理解を深める情報発信の強化	生徒寮における生活と学習の質の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・各種「たより」は定期的に発行されており、「学校だより」は7月、12月、3月に平・上平地域全戸に配布し、広報活動を行っている。また、本校のHPにも掲載している。 ・本校の様子を本校HPに適宜掲載しているが、内容に対する保護者の満足度を高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒寮で生活する生徒が年々多様化し、そのためひとり一人の学習能力や生活能力の差が激しい。このことから、今年度も昨年度に引き続き、個人に合わせた目標を学期ごとに掲げて努力させたい。これまでこの取り組みは、寮生活で自分自身を振り返る良い機会となり、寮全体の良い刺激となった。そのため、今年度も2、3年生は昨年度以上の高い目標を設定し、寮生活の活性化をはかっていく必要がある。
達成目標	①本校のHPの内容の充実と更新回数	②寮生活の目標と学習時間の目標の達成率 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が寮生活の目標と学習時間の目標を学期ごとに掲げ、「達成できた・だいたいできた」と回答する生徒の割合(毎月のアンケート調査)
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の教育活動に関わる内容のHPの記事の更新回数年間60回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの目標達成率75%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校のHPに学校行事等の記事をその都度掲載し発信する。 ・各分掌、学年、部活動等の担当者が随時掲載・更新する。 ・生徒の活動の様子がわかる内容の記事を月5回以上掲載・更新する。 ・更新状況を保護者に安全メールで知らせる。 ・生徒、保護者にとって必要なデータを残すよう、古いものについては整理する。 ・各種「たより」の発行も従来通り行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2、3年生は頑張れば達成できる範囲にハードルを上げ、現状の生活と学習の質を上げる目標を一人一人に設定させ、振り返りにより自信を持たせる。 ・それぞれが設定した目標の内容は他の寮生に開示しないが、毎月の目標の達成度を寮内に掲示し、互いに刺激し合うことで自分で立てた目標を常に意識させる。 ・職員には舎監時に寮生全員分の調査用紙を見てもらい、日頃の指導に役立ててもらおう。